

～地域とともに歩む五代目～
鈴木 太一郎さん
(四国中央市(旧川之江市))

〔(有)鈴木製材所 代表取締役社長〕
1977 年生まれ



☆経営概況☆

丸太の製材及び木製品、新建材の販売

鈴木製材所は、初代の市太郎氏が明治30年頃に創業し、以来約120年間、これまで厳しい時代もあったようですが、安定的に経営・運営しているところです。私は、大学進学とともに故郷を離れ、卒業後、徳島県で紙関係の仕事に従事していたものの、生誕以来、毎日のように触れていた木材の良さを、一度、離れたことにより、改めて、再認識することができ、自発的に平成17年2月、四国中央市(旧川之江市)上分町の自宅兼製材所にUターンしました。その後、見習い期間を経て、先代の父である謙から、その代表を平成27年に引き継ぎ、現在4年目となっています。

☆ここがポイント☆

市内の製材所は、全盛期には約20社営業していたが、後継者不足や、近接する他県等に大型製材工場が誘致されたこともあり、廃業するところが増え、現在では10社前後と、地場産業としては危機的な状況となっています。しかし、当社においては従業員4名のうち、30代が3名、20代が1名と若返りに成功し、バリバリと仕事をこなしています。

また、私は製材所の代表になる前から、地域異業種の若手らで組織する「四国中央次世代森林・林業・木材産業者協議会」の幹部として、積極的に地域の森林・林業の活性化のために取り組み、地域のニューリーダーとしての期待を寄せられています。

更に、四国中央市は、学校や公民館等の公共施設の木造・木質化を進めているが、より一層の木材利用が図られるよう上記団体を通して働きかけているところです。

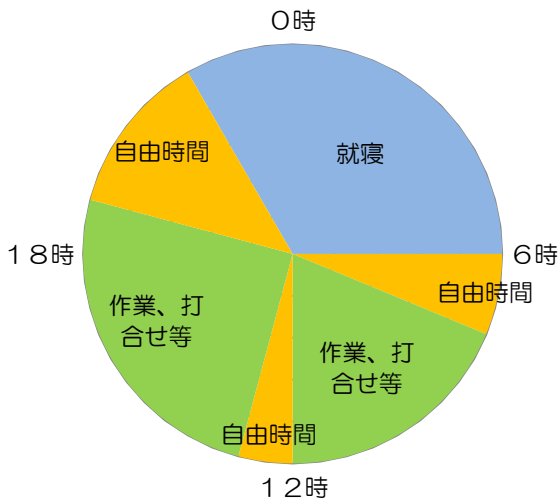


納品状況



取引業者と談笑中

【一日のライフスタイル（一例）】



【普段の生活について】

社長とはいえ、先代である現相談役の厳しい指導の下、日々、仕事に追われる毎日です。しかし、地域の地場産業である森林・林業・木材産業を、自分の代で絶やすことのないよう日夜奮闘しています。

そのような中、娘が剣道を始めたことをきっかけに、時間を捻出しながら、**地元の剣道クラブに所属し、自分自身のストレス発散も兼ね、週に1回は、大声を出して、自分自身に気合いを入れ直しています。**

【一週間のライフスタイル（一例）】

月	火	水	木	金	土	日
【繁忙期】	← 製材・営業 →					← 休日 →
【普通期】	← 製材・営業 →				← 休日 →	



次世代会(上段右から3番目)



次世代研修会

☆これからの夢や目指すもの☆

平成28年12月に地元森林組合は、来る2020年東京オリンピックに使用する木材を供給するため、森林認証を所得したところです。**鈴木製材所としても、山側から出荷される認証材を、途切れることなく地域内で製品化できるよう、CoC認証を取得する準備にかかっています。**そして、これを契機に、宇摩材の良さを地元の人だけではなく、他の地域の方々にも広く理解していただけるよう働きかけていきたいです。

☆メッセージ☆

「国破れて山河あり」森林・林業は、今も昔もこれからも、地域産業のみならず、地域の和紙生産を始めとする、宇摩地域の文化を後世に引き継ぐために無くてはならないものです。日本古来の古き良き文化の継承に、今後も邁進しますので、地域の皆様、自信を持って、宇摩林業・宇摩地域の発展と一緒に歩んで行きましょう！